

FED 議長の交代とハンガリーフォリント

世界はイラン戦争の行方に右往左往していて、関心が薄れてきた重要なイベントもある。FED の議長の議会承認もその一つだろう。

トランプ大統領から FED 議長への指名を受けたケビン・ウオーシュの上院銀行委員会での議長承認手続きが来週に始まる予定だ。だが遅れる可能性もある。共和党の委員の中に現議長のパウエルに対する刑事捜査を法務省が取り下げること新議長の承認手続きの条件と主張する者がいるからだ。法務省はトランプの手先なのでトランプが取り下げを決めるかどうかだ。

ウオーシュの承認が遅れば 5 月に予定される新議長就任は先送りになる。その場合はパウエルが議長を続ける可能性が高い。トランプは一日でも早いパウエルの交代を望んでいるので、普通ならば捜査の取り下げを命じるはずだ。あるいは共和党の委員を説得するかだ。そして新議長の下、早く利下げを実現させたいのだ。

ところが市場の状況はウオーシュを指名した 1 月末と現在とでは変化している。当時、金融市場では年内 2 度ほどの利下げの可能性を見る向きがあったが、次第にインフレ懸念が増し、1 か月前では利下げはあっても 1 度、1 週間前では利下げなしの見方が大半を占めるようになった。むしろ利上げの可能性を見る向きも増えた。だが直近では再び来年後半に利下げの可能性を見る向きが増えた。原油などのエネルギー価格の高騰が長引くことで不況に繋がり雇用の悪化を懸念する見方が出てきたからだ。

こうした状況での新議長の就任になるが、雇用の最大化と物価の安定を図る FED の議長としてトランプの眼を気にしながらの政策運営は巨額の資産家でも神経をすり減らすに違いない。

もう一つ、イラン戦争の陰に隠れて珍しく「明るい」変化が飛び込んできた。ハンガリーの政権交代だ。国政選挙で野党が 3 分の 2 以上の議席を獲得し圧勝した。16 年間続いたオルバンの政権が倒れた。この意味はハンガリーにとってはもちろん EU にとっても、世界にとっても大きい。

ハンガリーはオルバン政権で止まっていた EU からの拠出金が使えるようになり、経済のテコ入れに利用できる。EU はウクライナ支援などいくつかの問題でオルバンのハンガリーによる反対で止まった政策が実行可能になり、EU の結束を深めることができる。EU 内の右翼ポピュリストグループへのけん制になる。米国、ロシアなどハンガリーを梃子に EU の分断を図る戦略が効かなくなる。

ハンガリーの通貨フォリントは選挙結果を受けて対ユーロ、対ドル共に 3%ほど上昇した。直近ではそれぞれ 363.90, 308.60 近辺で推移している。新体制はユーロ導入も目指す。オルバン体制下で財政赤字やインフレなどのユーロ導入基準の指標は悪化した。16 年間以上続いた体制の変革には時間がかかるだろうが、方向性は明確だ。フォリントは長期的に上昇傾向だろう。